

活動中の「10の心がまえ」

- 1 被災地での活動は、現地の災害ボランティアセンターの指示に従って行動してください。
- 2 被災者に不信感を与えないように、災害ボランティアセンターで用意された名札をキチンとつけてください。
- 3 休憩時間には、被災者や一緒に活動するボランティアに、自分の住んでいる地域や出身地の歴史や伝統、文化、方言、暮らしぶり、自分の趣味などを紹介して、コミュニケーションを深めましょう。
- 4 ボランティアも人間です。無理をせず、こまめに休憩や水分補給をしましょう。のどが渴いていなくても補給するよう心がけてください。
- 5 作業に危険を感じた場合は、「できません」「無理です」「災害ボランティアセンターから、してはいけないと言われています」とハッキリと断りましょう。
- 6 ボランティア活動には、「約束を守る」というルールがあります。安易に「できます」「やります」と約束せず、少し無理する場合や、わからないことがあれば、速やかに災害ボランティアセンターに問い合わせてください。
- 7 ボランティアが頑張っているのに、疲れているのに一緒に無理して作業を手伝おうとする被災者もおられます。「私たちボランティアが来ている時くらいは、ゆっくり休んでください」と気配りしましょう。
- 8 被災した家屋の前でのボランティアの集合写真の撮影や、被災者との記念撮影をお願いする行為は、被災者の心情を考慮して絶対にしないでください。汚れたり壊れたりしている被災者宅の品々は、ゴミやガレキではなく、被災者にとっては『思い出の品』です。「捨てていいですか?」「どうしましょうか?」ではなく「洗って、とっておきましょうか?」と尋ねましょう。
- 9 ゴミ袋を携行し、ボランティアのゴミは必ず持ち帰ってください。ゴミを被災地に増やさないことも大事なエチケットです。
- 10 災害ボランティアセンターに行っても作業がない場合もあります。作業がないからといって怒らないでください。それは、たくさんのボランティアが参加しているからで、喜ばしいことでもあります。「待つこともボランティア」なのです。